

日本文化研究班

研究プロジェクト代表

木村 一信

(立命館大学大学院文学研究科・教授)

「外地」日本語文学データベースプロジェクト

「外地」日本語文学データベース プロジェクト



日本文化研究班 木村一信研究室

研究目的

- 本プロジェクトは、日本近代文学研究に基盤を置き、2007年度から開始したものである。研究対象は戦前期「外地」と呼ばれた植民地・占領地の文学であり、文献資料の調査収集とデータベース構築・デジタルアーカイブ化を目的としている。
- またアジアにおける日本近代文学研究の現状調査と連携のためのポータルサイト構築も活動の一環である。

研究背景

- 従来の文学研究は、主に日本国内で日本人によって書かれた「日本文学」を中心に取り上げてきた。一方「日本語文学」とは「日本語で書かれた文学作品」を意味し、「日本文学」に比べて広範な領域を含む。戦前の「外地」では、移住した日本人や現地の文学者によって多くの文学作品が作られた。それらは近年ようやく研究対象として光を当てられ始めた。
- 本プロジェクトは、現在進展している「外地」日本語文学研究のための基礎資料となる文献を整備し共有化することで、国際的な共同研究の展開を目指すものである。
- 2007年度以降は、植民地期「朝鮮」(1910-45)における日本語文学を研究テーマとし、「朝鮮」の代表的日本語新聞『京城日報』の文化関係記事索引と、詩雑誌の総目次をデータベース化している。

主な活動概況

- 2007年度
 - 日韓国際シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズの可能性 ―日本近代文学・文化研究の立場から―」
 - 京城日報・記事検索データベース(継続中)
- 2008年度
 - 韓国調査旅行(国史編纂委員会訪問・韓国外国語大学校での講演と交流)
 - シンポジウム「海外における日本文学の〈時空間〉 ―比較文化研究とデジタル・ヒューマニティーズ―」
 - 植民地期「朝鮮」日本語文学雑誌データベース(継続中)
 - 韓国・日本近代文学研究論文目録(継続中)
 - 「外地」文学研究会

活動紹介



日韓国際シンポジウム(2008/2/17)



植民地期「朝鮮」日本語文学雑誌データベース



韓国外国語大学校・講演会と討議(2008/8/8)

プロジェクトメンバー

- 【事業推進担当者】 木村一信
【PD】 楠井清文
【RA+】 金泫芝(D1)
李延垠(D1)

※活動記録は下記ブログにて随時公開しています。
<http://www.arc.ritsumeimei.ac.jp/lib/GCOE/JCSG/kimura/>

